

現場活用検証テーマ

カテゴリー	テーマ	掲載ページ
現場テーマ①	消防防災分野における A I や D X を推進する技術の現場活用検証	2
現場テーマ②	火災現場における消防士の職業暴露による発がんリスクに関する研究	3

現場テーマ①

消防防災分野におけるＡＩやＤＸを推進する技術の現場活用検証

背景・意義等	消防庁では、指令・業務システムの高度化や新たな情報収集システム（消防映像共有システム）の構築、ドローンの配備・活用等、ＡＩやＤＸを推進する技術の導入を推進しているところである。 このような技術を広く普及させるためには、先行事例の紹介や、消防本部などの実態に合わせた改良、運用方法の検討が必要である。
最終的な完成品のイメージ	消防防災の現場に既に導入、又は試験導入（予定も可能）しているＡＩやＤＸを推進する技術について、現場運用して検証し、必要となる機器の改良や消防機関等における実運用に必要なマニュアル等を作成する。 なお、研究に当たっては、普及における課題を明確にし、それに対する解決策を提示すること。 <例> ○パワースーツを用いた消防活動に関する標準的なマニュアルの作成 ○消防隊員の熱中症を予防することを目的としたスマートウォッチに必要な機能の研究 ○＃７１１９にＡＩを導入した場合の運用方法の検証とマニュアルの作成

現場テーマ②

火災現場における消防士の職業暴露による発がんリスクに関する研究

背景・意義等	世界保健機関（WHO）の外部研究機関である国際がん研究機関（IARC）は、IARC Monographs Vol. 132 レポートにおいて、消防士としての職業暴露は、中皮腫や膀胱がん等を引き起こす可能性があると評価した。 しかし、消防士の発がんリスクとなる対象物質、曝露経路とその因果関係は解明されていない状況である。 このため、我が国における火災現場の状況や消防戦術の特徴を踏まえた発がん性に関する健康被害の基礎調査等による対象物質の特定や曝露経路を解明するとともに、発がんリスクに対して科学的根拠に基づいた具体的な対応策を明示する必要がある。
最終的な完成品のイメージ	・ 消防士の発がんリスクとなる対象物質の特定 ・ 対象物質の暴露評価を行い、曝露量と曝露経路の解明 ・ 研究成果に基づいた、消防士の発がんリスクの低減に有効な手段の提案